

「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～「ティンガティンガ」って知ってる？パート③～

少し間があきましたが・・・パート③です。「ティンガティンガ」というアフリカのペンキアートに魅了されて、「もうアフリカに行くしかない！」「これだ！これで生きていこう！」

と、翌日には会社に退職願を出し、単身アフリカに向かい、タンザニアのブンジュ村で生活しながら、絵を学ぶと同時に、村長や村人との交流により「人の生き方の本質」を学んだという SHOGEN（ショーゲン）さん。そのブンジュ村でのザイちゃんという女の子とのお話です。

ある日、僕は3歳のザイちゃんにこんなことを言われました。

「ショーゲンは、肌と肌が触れ合うのが温かいってことが分かっていて、私にその言葉を言ってるの？」

その頃、僕は村の生活に慣れようと努力しつつも、文化の違いや独特の心の在り方、考え方に圧倒されていました。

いろんな人から「ショーゲンは心に余裕がない」とか「人生をただこなしているだけのように見える」などと言われて、痛烈に僕の生き方を指摘されることが多かったんです。

スワヒリ語が理解できなかった時は、そんな手痛い指摘もやり過ぎすこともできましたが、だんだん言葉が聞き取れるようになると、細かい指摘がけっこうグサグサ心に突き刺さり、落ち込む日々でもありました。

そんなある時、ザイちゃんが友だちから、お菓子をもらっているのを見た僕は、ついひと言、言いたくなくなってしまったんです。

「ザイちゃん、ちゃんとお礼を言わないとダメだよ。」

そう言ってしまったことで、冒頭の言葉をザイちゃんから言われたのです。

「ショーゲンは、肌と肌が触れ合うのが温かいってことが分かっていて、私にその言葉を言ってるの？」

ザイちゃんは、続けて言いました。

「ショーゲンの言葉には、体温が乗っかってないから、私には伝わらない。」

3歳の子に言われて、僕は動揺しました。日頃から何かと心の在り方に指摘を受けていた僕は、つい「僕だってわかってるんだ」と、ちょっといいところを見せたくなくなっていたんです。そんな気持ちが、ザイちゃんにはお見通しだったわけです。

「お礼を言わないとダメだよ。」という僕の言葉は、自分の名誉回復のための言葉であり、ザイちゃんのための言葉ではなかった・・・。そんな言葉に体温なんか乗っかるわけがない・・・

ザイちゃんは、さらに言いました。

「言葉はね。相手をハグするように言うのよ。」

ショーゲンは、お母さんから抱きしめられたことはないの？」

ザイちゃんは僕に近寄り、「私が抱きしめてあげるね」と言って、ギュッと抱きしめてくれました。

ザイちゃんにハグされて、僕は泣けてきました。

「人と話すときは、その人を抱きしめるようにして話すんだよ。」

この村の子どもたちは、みんなお母さんから、そう教えてもらって育ちます

「今日、誰のために生きる？」～アフリカの小さな村が教えてくれた幸せがずっと続く30の物語～

ひすいこたろう×SHOGEN（廣済堂出版）



ハリネズミを回避するダチ
ヨウとザイちゃん

「人と話すときは、その人を抱きしめるようにして話す。」なかなかできていないなあ。意識してみよう！